令和7年 第1回定例会
いっぱんしつもん

3月5日に、6名の議員から町行政に対する一般質問がありましたので、要旨をお知らせします。

町内会の再編について

Q 今一度町内会の再編成審議会を立ち上げなければならないように思うが、考えを伺う。

A 一部の町内だけでなく町全体として町内会の再編が必要となった場合に審議会の設置を検討したい。

鈴木　正彦 議員

鈴木議員　妹背牛町は少子高齢化が進み、人口減少が加速している現状である。それに伴い、町内会活動の維持が難しくなっている町内会も増えているように理解している。平成25年3月に行政区域再編審議会による妹背牛町の町内会及び行政区再編成について具申がされ、当時は町内会再編に対して多くの住民は現在の町内会の維持を望んでいたが、その後十数年が経過し、情勢もずいぶんと変化している。今一度町内会の再編成審議会を立ち上げなければならないように思うが、町長の考えを伺う。

企画振興課長　令和5年度の町政懇談会にて農家地区の方から住民区再編について意見があり、昨年、農家地区の町民に対しアンケートを行った。再編を希望する区もあったが、「希望しない」「将来的には検討」が多い状況であった。正副区長会において意見をいただきながら隣接する区などと協議をし、調整を含めて方向性を模索している。その結果農村区の10地区ほとんどが統合を希望している場合、町として統合に向けた検討を進めていきたい。また、町内会再編成審議会については一部の町内だけでなく町全体として町内会の再編が必要となった場合に審議会の設置を検討したい。

町長　町内会や行政区については、多くのことを担っていただいてありがたいと思っているが、自主組織の大切さというものを深く感じている。町内会、あるいは行政区が問題を認識した後、役場と一緒に解決していきたいと示すというスタートの部分が非常に大事だと思っている。役場が上から覆いかぶさって再編をしたのだという話と混同される危険性があるためである。そういったことのバランスを取りながら進んでいくという方針であるが、議員がおっしゃる危機感に関しては非常に深い共感を持っており、これからも状況を見守りながら適切に対応していきたい。

ペペル温泉の経営について

Q 今後の赤字解消へ向けての考えと、将来へ向けてペペル温泉のビジョンを伺う。

A おもてなしの心、健康にも資する魅力のある温泉、おいしい料理で喜んでいただけるものを目指す。

渡辺　倫代 議員

渡辺議員　田中町長になってからの予算審査特別委員会において二度の「付帯意見」が出されているが、いずれも妹背牛温泉に関しての付帯意見である。令和5年には、休館中の人材確保、研修に注力した万全な準備など振興公社役職員一丸となってリニューアル後の経営方針を明確に立て黒字経営を求められた。そこ

で次の件を伺う。
①リニューアル前の経営について、どういうビジョンで取り組まれていたのか、感想と行われた検証をどう生かされようとしたのかを伺う。
②振興公社内にコンプライアンス体制が必要だというお考えはないのか伺う。
③休館中の、リニューアル後に向けた準備について伺う。
④今後の実効性のある赤字解消へ向けての考えと、将来へ向けてペペル温泉のあるべき姿、いわゆるビジョンを伺う。

町長　①以前は2本の井戸のうち2号泉の方が温度が高かったが、真水が入り下がってしまった。そのため現在は1号泉を加熱して使用している状況である。給湯設備も30年経ち老朽化が限度に来ていた。またレストランでは人員が不足していた。こういった流れがあり、温泉に抜本的な変化をもたらさなければいけないという考えで見詰めていた。
②徐々に作り上げていきたいと思っている。今までは現場任せにしてきたが、それでは統率が取れないことを実感した。
③リニューアル後に向けた準備として、まずは従業員を確保しなければならないということ、建物をリニューアルしても働く人がいなければいけないということを念頭に置いて準備を進めてきた。
④外からの集客につながる魅力、そして地元との整合性という非常に難しい経営理念を持たなくてはいけないと思っている。おもてなしの心、健康にも資する魅力のある温泉、おいしい料理で喜んでいただけるものを目指す。

外出支援サービスの見直しに伴う受益者への負担額の増額について

Q　介護タクシー利用者に負担額の増を求めることについて考えを伺う。

A　現在の利用者負担学は委託料の1割程度であり、公共交通と比較しても格安であるため適正な負担を求めるため改正させていただいた。

小林　一晃 議員

小林議員　介護タクシー利用者に負担額の増を求めることについての考えを伺う。高齢者に対する生活支援事業の中で、介護認定が2以上の交通弱者と言われる町民に対して通院の負担軽減を目的とした介護タクシーの利用制度があり、現在二十数名の町民の方々が利活用されている。新年度より利用者の負担額が大幅に引き上げられようとしているが、その考えの根幹はどの様な事に基づいたものなのか伺う。

健康福祉課主幹　利用料の見直しについては、例えば深川市への通院に対して現行では1往復あたり550円の利用者負担となっている。これは町が事業者へ支出している委託料の1割程度となっている。配食サービスでは5割程度の負担をいただいていることなどから見直しを行い、新年度より3割程度の負担をお願いしている。この外出サービスは、玄関から病院までの送迎を行うサービスであり、現行のままだと一般の公共交通であるバスと比べても格安となってしまうため適正な負担を求めるために改正をさせていただいた。また月額の上限を8，000円と定めさせていただいており、遠方への利用者の値上げ幅は抑えられていると考えている。大幅な負担増となってしまうが、ご理解いただきたい。

町長　限られた予算の中で事業を継続していかなくてはならない部分もあり、事業が適正かどうか定期的に見定めていかなくてはならない。今までの利用者には厳しく映ると思うが、交通費助成なども活用していただきたい。町民の方からの相談に対しては丁寧に対応していきたいと思うのでご理解いただきたい。

地域おこし協力隊の現状について

Q 地域おこし協力隊の任期終了後の定住・定着の進め方、また現状について伺う。

A これまでに11名の隊員を採用してきた。退任された6名の内2名が退任後も本町に定住されたが1名は転出され、現在は1名が在住している。

佐々木　和夫 議員

佐々木議員　地域おこし協力隊は都市部の人が地方で地域活性化に向けて活動し、最終的にはその地域への定住、定着を図る取組である。各自治体の委嘱を受け、その任期はおおむね1年から3年とされており、本町においても地域おこし協力隊の方がそれぞれ業務をされているものと承知している。そこで、地域おこし協力隊の応募要領や各協力隊員にあった業務内容となっているか、任期終了後の定住・定着の進め方、また現状について伺う。

企画振興課長　本町では平成28年度に最初の協力隊員を採用して以来、現在も活動中である5名を含め、11名の隊員を採用してきた。これまでに退任された6名の内2名が退任後も本町に定住されたが1名は転出され、現在は1名が在住している。外国人サポートのため協力隊として5名採用し、現在2名が活動されており、3名が退任した。その内2名は帰国され、1名は道内の企業で活躍している。募集については、募集要項を作成し、業務概要や活動内容、給与面や待遇、福利厚生について明記し、ホームページやハローワーク、募集サイトで行っている。履歴書、申し込みレポートで応募動機や活かしたい能力、応募時点での退任後の希望、自己PRについて1次審査を行い、面接で業務内容や勤務条件を丁寧に説明後、経験やスキル、目標などを伺い、採用の判断をしている。活動期間中は、定期的に活動内容の報告をもらい、活動状況の確認や相談しやすい環境を心掛けている。任期終了後、町内で起業する際などには定住促進事業や起業支援などを活用できるようサポートしている。

町長　地域おこし協力隊を採用するにあたり、業務の単なる戦力とは考えておらず、今後も町の発展と本人の希望にそぐう形で配置できるよう、ミスマッチのないように努力していきたい。

ヤングケアラーの実態について

Q ヤングケアラーに関する実態調査が令和4年度以降行われたか、またその実態を把握しているか。

A 本町独自の調査は実施していないが、包括的な支援を行うため、深くかかわりを持ち、現状等を常に把握していると考えている。

田中　春夫 議員

田中議員　本町のヤングケアラーに関する実態調査が令和4年度以降行われたか、またその実態を把握しているのか、民生委員・児童委員、学校関係者の情報交換がどのように行われており、その事例に対しどのような指導、対策が取られているのか伺う。

健康福祉課主幹　ヤングケアラーについて本町独自の調査は実施していないが、妊娠期から子育て期まで切れ目のない包括的な支援を行うため、深くかかわりを持ち、現状等を常に把握していると考えている。また、健康福祉課から小学校、中学校、保育所に年1回伺い、関係機関との情報共有の場を設けている。併せて教育委員会や支援関係団体等とも随時情報共有を行っている。これらをもとに検討し要保護児童対策地域協議会等で協議したり、子育て支援サービスにつなげたり、児童相談所などの専門機関に相談するなど、困りごとの解消を図っている。今後国の施策等でより詳しい実態調査が必要になった場合は実施を検討する必要があると考えている。

見通しが悪く危険な道路について

Q 町道川一線ホクレン包材前の道幅が急に狭く、急カーブになっており危険な状態だが今後の町の対応を伺う。

A 視覚的に狭く感じるかと思うが、実際には道路幅は狭くなっていないため危険度が高い道路ではないと認識している。

中山　義博 議員

中山議員　道路の見通しが悪く危険な箇所があることについて伺う。町道川一線ホクレン包材前の道幅が急に狭く、急カーブになっている。両側に建物があり工場や構内に入っていくような状況になっているが、標識がなく、道路幅が狭くなり、さらに急カーブになっているため、車両の交差が難しく、また通行人との接触が起きかねない危険な状態になっているが今後の町の対応を伺う。

建設課長　ご指摘の場所、町道川一線道路の両側にはホクレン包材株式会社の工場施設等が約１５０ｍにわたり立ち並んでいる。車道の幅員は５・５ｍ以上確保されており、通行上は特に支障ないものと認識している。カーブについても曲線半径が１００ｍであり、カーブの長さも50ｍほどで特別長くもなく緩やかなカーブとなっている。道路の両側に建物があり、先がカーブになっているため視覚的に狭く感じるかと思うが、実際には道路幅は狭くなっていないため危険度が高い道路ではないと認識している。

町長　標識をつけることによって通常よりもゆっくり運転していただくお願いにつながる効果はあるかと思う。現場の状況は見させていただくことを約束し答弁とさせていただく。

積雪期、運転に支障をきたす雪山について

Q 雪山により安全運転に支障が出ているところがある。町道の安全管理として対応について伺う。

A 今年度のように連続的に降雪が続くと排雪が追いつかない状況も発生するため、冬期間は回覧形式とホームページにより注意喚起を図っている。

中山議員　町の除雪対応について、建設課発行の「除排雪作業にご協力ください」のチラシの効果について伺う。交差点の雪山により車からの見通しが悪いため、安全運転に支障が出ているところがある。問題となっている雪は町道の雪だけでなく各宅からの雪もある。町道の安全管理としての対応について伺う。

建設課長　令和６年度は２月に入ってから寒気の影響により多量の雪が降る日が多く、昨年を上回る積雪深になっている。車道除雪により道路脇に寄せられた雪を地先の方々が出入口確保のため雪を積み上げることにより徐々に雪山が形成され、場所によっては交差点部にかかっているものと思う。町としては、積雪状況に応じ適宜排雪を実施し、車道の幅員確保や見通しの悪い交差点の解消を心がけているが、今年度のように連続的に降雪が続くと排雪が追いつかない状況も発生する。そのようなことから、冬期間は回覧形式とホームページにより「除排雪作業にご協力ください」のチラシにより周知を図っているところである。積雪期は、車を運転する方や歩行される方も安全にご留意され、併せて除雪に対するご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。